

平和を愛するコンゴ共和国のおしゃれ集団「サプール」

在コンゴ民主共和国日本国大使館
(コンゴ共和国兼轄)

「サプール」は、フランス語の Société des ambassadeurs et des personnes élégantes (SAPE、「おしゃれで優雅な紳士協会」の意) に由来します。特にコンゴにおいては、ハイブランドスーツなどを身に纏い、とびきりのおしゃれをして街を闊歩する人たちのことを言います。

サプールの起源は、1920年代のフランス領コンゴの社会運動家アンドレ・マツワに求められるとの説があります。マツワは1922年、パリからコンゴ共和国の首都ブラザビルへと帰国する際、パリ紳士の正装でブラザビルへと降り立ち、清潔感あふれる西洋の装いを見たコンゴの人々はそれに憧れ、それに独自の美意識を反映させたものを着用するようになったとされています。

1960年の独立後の混乱で一時は廃れましたが、コンゴ民主共和国の歌手であるパパ・ウェンバの登場によって再興しました。パパ・ウェンバは、美しいスーツ姿でステージに上がり、一世を風靡しました。彼は特に日本のブランドであるヨージ・ヤマモトやイッセイ・ミヤケをこよなく愛しました。それ以降、当時の若者たちに再び SAPE のファッションが流行し、以後再定着したとされます。彼らのモットーは、平和。「服が汚れるから戦わない」というシンプルな哲学のもと、エレガントに生きることを追求しています。

日本国内では、2014年12月4日にNHKの「地球イチバン」で、「世界一服にお金をかける男たち」という題名でサプールが紹介されました。また、写真家の茶野邦雄（ちゃやくにお）氏が、写真を通じて彼らのファッションや生き方を紹介し、日本でサプール写真展が開催されるなど、多くの人々の関心を集めています。



サプールのシンボリック的存在であるムイエンゴ・ダニエル通称ゼブランさん。省庁で長年会計担当を務めていた。今は大サプールと呼ばれている。